10月18日は ドライバーの日
すべてのプロドライバーに感謝し、ドライバーの地位の向上を目指す日です。

物流Weekly ウィークリー
株式会社 物流
2009年7月6日号 毎週月曜日発行
http://www.weekly-net.co.jp
購読料3か月10,500円 振替口座 00950-4-106153
全国10拠点を系

躍進する女性陣

お客様と会社をつなぐ

第146回 山正マーケティングサービス

「時代は絶えず変化し、流れを変えていきます。その時々に柔軟に対応し、お客様のニーズに合わせた配送システムを提案していきます」と、共同配送を積極的に進めている山正マーケティングサービス（山根宏男社長、滋賀県大津市）。同社の要として働くのが、白石真弓さん、川縁文香さん、塩見絵美さん、溝畑友紀さん、栗田史子さん。「迅速な仕事を心がけている」という同社の「女性陣」だ。

「フレンチュラーが起こった場合、ドライバーとお客様をつなぐことになるため、どれだけ迅速に仕事ができるかを心がけている」という。仕事はきっちりとなして、締めるところは締めるが、「和気あいあいとやっている」。

「仲がいい」という同社の女性陣「和気あいあい」には、山根社長も大いに貢献している。「ランなどの花を大事にされており、事務所に置いて自らの育てている」という同社長。「元気などを言って、社員を和ませてくれる」ことあるという。「ユニークな社員が多い」という同社の良い雰囲気を、率先して作っているようだ。

左から川縁さん、白石さん、溝畑さん、塩見さん、栗田さん

同社はまた、「受領印の確認を確実にしている」「誤出荷がないように注意」「伝票の間違いがないか」「納品間違いを発生させて、お客様に迷惑をかけないように」など、徹底してミスゼロをめざしている。その背景には「ドライバーや会社のサポートに徹する」という意識がある。

「会社はまだまだ長い歴史がありますが、今は若い従業員が多い。若い力でやっている」と話すのは山根秀人総務部長。「彼女たちはお客様と会社をつなぐ大切なキーポイント」と評価し、「縁の下の力持ちとして頑張ってもらっている」と話す。

同社の経営方針に「能力を知り、得意分野を生かせ」「人材教育と人の質を高める」というのがある。同社の「女性陣」は和気あいあいとした中でサポートを徹底し、得意分野を高めて生かしている。（小西克彦）

ビジネスパー

関東地方 古レンガ

辻本浩久社長

め、遊びついでのお客さんも来る。接客や販売に興味があるようがいい」と話す。

発送輸送が本業の同社が、古レンガ販売を始めたのは7年前からで、いまでは「古レンガ屋やまぼうし」の名で知られ、全国各地から品定めの客がやって来る。販売するのは解体された製鉄所の炉を形作っていた古レンガで、人工着色された市販品とは色合いが明らかに違うこともあり、人気を呼ぶ。大手のうち5・20～30㌢は関東地方向け。

同社の強みは、自社便を利用して送料を安く抑える工夫ができることで、個人客にアピールしてきたことにもある。自社で運送手段を持たない通常のレンガ業者の場合、数千㌔単位での配送が可能だが、数百㌔単位になれば数回に分けて路線便を使うしかない。

環境にもいい 市場は伸びる

同社は、帰り便を使った自社配送で送料を安く抑えてきた経緯がある。今回、ビジネスパートナーを募るのは、輸送需要が増加する関東方面でのデポを確保し、小口送料を抑えることが目的。

パートナーには接客のほか、配送などを依頼できればという。

今後、フランスから直輸入したアンティーク瓦などの販売も始める予定。同社長は「環境にもいいリユース商品を安く提供したい」と思っている。

問い合わせは、電話06（6494）5[illegible]36番・辻本社長まで。（西口剛生）

コケ

・初期投資、ランニングコスト低減
・軽量
・維持管理が不要

上、建物の耐荷重の条件もクリアできる（重量は1平方㍍あたり約2・5㌔㌘）。

また、コケは日照の環境だけで育つ

導入効果としては、他の屋上緑化と同様に、断熱効果で夏には室内の温度上昇を抑制し、冬は暖気が外に出るのを防

真夏日が続いても枯れることはな

また、倉庫・物流センターに多く用いられている金属製の「セッパン屋根」向けに「セッパン屋根メッシュパネルシステム」も提供しており、数千平方㍍規模の施設に対応。

同社のHPは、http://www.[illegible]g.jp/moesetch/

越野運送

憩いの空間を提供

屋上緑化、従業員に開放

「憩いの空間を提供」

越野運送（越野泰弘社長、大阪市都島区）の本社屋上では緑化が施されており、昼休みなど憩いの場所として従業員やパート社員に開放されている。

屋上を緑化することで、ヒートアイランド現象の緩和や植物による排ガス浄化効果、冷房負荷の軽減などが図られ、CO2削減も期待できる。越野社長は、「平成19年7月に本社社屋が竣工した際、環境に配慮しつつ心地よい場所を作れないかと」ということで屋上の緑地に取り組んだ」と話す。

屋上緑地は、近隣に迷惑がかからないようルールが決められ「緑地の横にはベンチを設けて昼食時や休憩、気分をリフレッシュしたい時などに使用されている」（同野守忠営業部長）という。芝の手入れや枯れ葉の掃除は越野社長自身が担当。「厳しい時こそ従業員は神経をとがらせている。安らげる場所になれば」と、手入れがいきとどいた芝や樹木が敷き詰められている。

緑地の横にはベンチを設け、安らげる場所に

生ゴミ分解など エコ商品を扱う

地球温暖化防止に対する意識が高まるなかで同社は、約3年前に環境システム事業部を設置。エコ関連の商品を取り扱い環境に貢献している。同商品はホテルや病院、学校、老人保健施設などの食品廃棄物を水と炭酸ガスに効率よく分解する「マジックバイオくん」がある。

微生物の働きを利用したシステムで、食品廃棄物90～95％の減少を実現。機種にもよるが、1日の最大処理は15～50㌔の生ゴミなどを約5時間で処理する性能を誇り、悪臭の発生を最小限に抑えているという。同社は販売代理店として事業を展開し、越野部長は「メンテナンスなども行っている」と説明。同商品はホテルや病院、学校、老人保健施設などの様々なロケーションで導入されており、食品リサイクル法や環境ISOの取り組みにマッチした商品だという。

昨年にグリーン経営とISO9001の認証取得に引き続き、今年度は環境ISO認証の取得に向けキックオフした。越野社長は「柱となる運送事業はトラックを使用して事業を行っており、環境に配慮した取り組みは当然必要。積極的に環境に優しい取り組みを進めていきたい」と語る。

マジックバイオくんの問い合わせは、電話06（6922）4567番。（山田克明）

つらえた「高台」との出番となった。

「大八車は、付近にく重きされた」かつて材所や材木問屋が集積

「仮眠を取るならコンビニ駐車場」

「緊急の連絡などでドライバーのケイタイを鳴らしても、仮眠中だとなかなか起きない」と話す事業者は少なくない。そんな場合に「うまくコンビニを使っている」と広島県福山市の運送事業者。最近は幹線道路沿いの大きな駐車場を備えたコンビニで仮眠を取るケースが増えている。

「ドライバーによれば、一部のコンビニでは駐車が3時間を超えると注意してくるようで、それは逆に考えると『3時間だけ起こしてくれる』ということ」。3時間後に注意してくれなかった場合が怖いが、「これまでのところは問題なかったみたい」と笑う。

とはいえ、そんな危ない橋を渡り続けることはできない。そこで社長が思いついたのは「コンビニの駐車場に入ったら、まず何か買うこと。レシートにはコンビニの住所や電話番号が書かれており、